

千寿墨

古来より文房四宝のひとつとして親しまれ貴ばれてきた墨は、
 消磨されながらはじめて不滅の光彩を放つという宿命をもっています。ここにお届けする千寿墨は、
 中国から造墨の技が伝えられて一千数百年という悠久の歴史を背景に、
 呉竹が今日の粋を記録に留めたいという願いを込めて練り上げた墨匠畢生の作でございます。
 繊細にて微妙なる墨色の妙とその形を、ご自身の手でお確かめいただければ幸甚に存じます。



くわの きの げん かん
 桑 木 阮 咸

千寿墨NO.177

12.0丁型

油煙墨

図柄：正倉院宝物 四絃琵琶

くわのきの げん かん ぼちる
 桑木阮咸 捍撥の図

桑木阮咸とは、竹林七賢の一人である阮咸が
 愛用していたことに因んでその名がつけられ
 た、円形の胴に長い棹を持つ四弦楽器であ
 る。その捍撥部分には、朱と丹で隈取りした
 八弁の花文を地文様とし、獣皮の上に坐した
 高士が、松の下で基盤を囲み清遊する姿が描
 かれている。

この色彩豊かな世界を、墨として立体的な彫
 りによって鮮やかに表現した。

